

先人達の知恵「吉野林業の世界」

令和7年(2025)9月13日~11月16日

開催場所：奈良県立美術館

「吉野林業用具と林産加工用具」を通して「木」を利用した人間生活を伝える展示をします。

奈良県立民俗博物館に所蔵される「吉野林業用具と林産加工用具」は明治時代から昭和30年代にかけて、奈良県南部の吉野郡内で使用されていた育林を中心とした林業関係用具と、豊富な木材資源を利用した林産加工品の製作に用いられた用具類及び一部製品から成り、木を切り倒すことなどに用いる林業用具616点、切り出した木を加工した道具などの林産加工用具1292点、あわせて1908点からなり、これらは2007年に重要有形民俗文化財に指定されました。民俗文化財には制度上、国宝の指定はありませんが、それに匹敵する価値があると評価されています。奈良県には林業の道具が多くそろっており、吉野林業の全体像を把握できる貴重な資料群とされています。これらの道具は同じように見えても、一点一点が用途に応じて異なり、手作りで繊細に仕上げられ、工夫が凝らされています。我々人類が何を選択し、何を捨ててきたのか、その時代の中の生活の知恵をご覧ください。

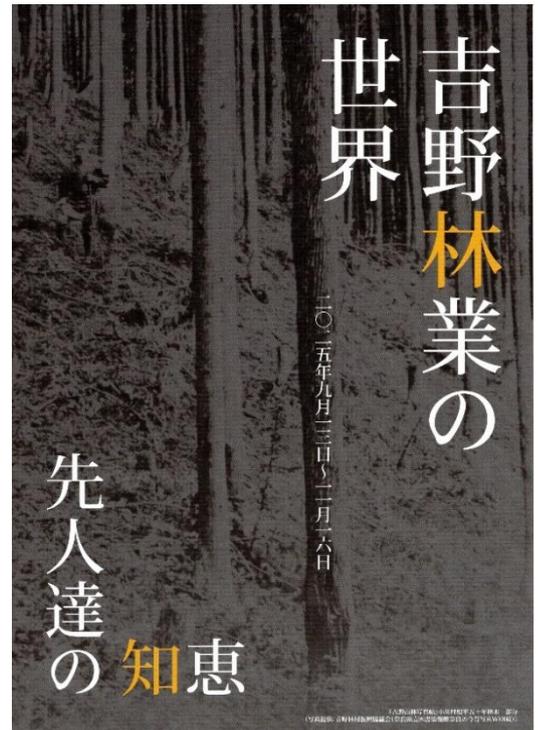
伝承されてきた生活の知恵

林業における技術伝承には、それは木の切り方や運び方、どのような木が商品として適しているのか等、先人から受け継いできただけでなく、伝承の中には、山の神への祈りや、この地に暮らす人々の思想も含まれています。

伐採の主役ノコギリ：用途に応じて縦挽き、横挽き、大小さまざまな種類があります。

風習を込めたオノ：危険回避の祈願として、山の神に奉納する意味を込めて「三本線：ミキ」「四本線：ヨキ」の刻印が施されます。

天然香料吉野杉タルマル：酒造業者が酒樽で輸送する際に吉野杉の香りが移り、江戸の人気を博しました。



上記リーフレット表紙に使われた写真「吉野山林写真帖」より

